

“見直し”は何だったのか！市民が怒りの声！

梅田市長、
田中前市長
とおなじ！

巨大給食センター建設を発表！

梅田市長は8月27日の全員協議会で、学校給食調理施設の整備について検討結果を報告しました。市長は前市長の掲げた1万2000食規模の学校給食センター建設は「一度立ち止まって再検討すべき」と選挙公約で市民に訴え続けてきた経過があります。

巨大給食センター建設 疑問点は5項目

疑問点①経済効率が優先されているのではないのか。

検討結果 老朽化した学校関係施設全般の改修のための財源確保が課題。

疑問点②既存の給食調理施設の活用は図れないのか。

検討結果 学校給食の質の統一や食物アレルギーへの対応など難しい面がある。

疑問点③自校調理方式との比較、検証はあったのか。

検討結果 相当な期間と費用を要する。（比較、検証は行わず）

疑問点④大量調理に対する危機管理は充分であるのか。

検討結果 学校給食衛生管理基準を徹底的に遵守することで可能。

疑問点⑤周辺道路への交通の影響はないのか。

検討結果 定期的モニタリングを行い周辺の影響を確認しつつ、適宜、必要な対策を検討していく。



私たちの声は
巨大給食センター建設反対です！

5項目の疑問点を検討するため次の視点に立つて再検討を行った。

検討した視点は5点

①小・中学校の学校給食の現状
検討結果 給食センター、栗橋小の給食調理室の老朽化は著しい。

②現計画を中止した場合の代替策
検討結果 自校調理方式や親子方式での整備は期間と費用が必要。現計画に勝る方策は見いだせなかった。

③目指すべき学校給食の在り方
検討結果 「安全安心の確保」「おいしさの追求」「食育の充実」

④現計画における学校給食センターの機能の検証

検討結果 食物アレルギー調理室と盛付室が計画。地産地消の推進。

⑤老朽化した学校関係施設全般の改修のための財源確保の問題

検討結果 他の学校関係施設の整備が必要。



自校方式はおいしいね！

梅田市長の結論

- ・東京理科大跡地に12000食規模の学校給食センターを建設する。
- ・提供開始は平成33年8月とする。

市長発表に対する市議団の見解

・本当に十分な検討をしたのか！

・市民要望に背を向けた結論！

・埼玉県「おいしい給食の検証はされたのか

市長は、議会から提案のあった、自校方式で優れた実績を上げている、さいたま市、草加市などの検証はしていません。

建設計画で緊急提案した内容、期間や財源について具体的な検証はしていません。

地産地消の取り組みの強化についても、自校方式給食を進める草加市など、長年継続的な取り組みが行なわれていますが、このような検証もされていません。

立ち止まって考えたとは言えない！

公約違反では！

これでは、「立ち止まって考えた」とは言えないのではないのでしょうか。

自身の5つの疑問に対しても、本当に十分な検討を行ったのか疑わざるを得ません。

「子どもたちのことを第一に考えた学校給食を求める請願」には、1万1000筆の署名が添えられ提出されていました。市長はこの声をうけ「一旦立ちどまって考える」ことを掲げたのではなかったのか。新市長の誕生には、このような市民の声が反映したものと考えられます。

田中前市長の計画を復活させた今回の結論は、市民に向かって発信した選挙公約にも反するもので、市長の「見直し」に期待した市民の理解は到底得られないと考えます。

済生会栗橋病院の現地存続が危うい！

再整備のための「増床ベット」

埼玉県に申請せず！



地域医療の拠点として現地存続を！

現在地での整備案は撤回

現在地の整備として示した、回復期病床50床やサービス付き高齢者住宅38室とする案は、本館の老朽化が激しく、多額の費用がかかる。回復期リハビリテーションの医師や専門スタッフの確保が難しいことから実現は難しいと判断した。その結果8月24日を期限とした、埼玉県の増床計画公募には応募しなかった。

引き続き地域医療存続に向け努力を

加須市での新病院開設は2021年10月、3年後で、引き続き、地域医療の存続に向けお互いに努力していくことを約束している。以上が報告です。

9月3日、済生会病院との定期協議の内容について報告がありました。以下報告します。

(市長報告)

8月28日、病院長から、加須市の新病院についての説明と現在地における整備計画の説明を受けた。再整備案を撤回することが示され、市はこの報告を受け、誠に遺憾であるが、今後も地域医療の存続に向け努力することを約束し、協議を終了した。

(部長報告)

加須市の補助について

加須市の新病院計画は300床規模の病院で、開設は2021年10月を予定。加須市から最終的な補助金額が示され、建築工事、医療機器、建設用地など、合計60億円の補助額となる。

済生会栗橋病院の再整備案の行方は

済生会栗橋病院院長は

6月26日、地元区長さんから「安心できる体制を望む」の声を受け、「初期救急的な医療であれば対応が可能、現在の建物を活用し、継続できるよう梅田市長とよく相談し決めていく」としていました。

久喜市の姿勢は

「再整備案が明らかにならないと支援策も示すことができない」「ベッド数が確定し再整備案も確定すれば、栗橋地区の地元住民の声を大事にし、どのような再整備案が最善となるのか、病院長とのさらに協議をお願いしたい。」とのべて来ました。

久喜市は

支援策を示さなかったのでは？

このような経過から、栗橋病院は検討した再整備案を実現するために「ベッドを増やしたいが財源もいる」と久喜市に相談したのでは。しかし、結果は「増床の申請はせず」であった。このような経過から想定されることは「久喜市は具体的な支援は示さなかったのでは」と考えられます。

久喜市はこれまで、再整備案が示されれば支援について検討するとして来ましたが、いまこそ「支援策を示すとき」その姿勢が問われているのではないのでしょうか。

存続に向け努力したい

今回の意見交換の報告を聞く限り「現時点において、現在地における再整備案はなくなった」と受け止めざるを得ません。この11月には済生会埼玉県支部理事会が開催されます。この理事会において、済生会栗橋病院はどのような局面にあると言えます。市長は存続に向け努力したいとしています。市民の期待は大きいものがあります。

一般質問です。ぜひ傍聴に来てください！

石田利春：10日②番目

- 1 液状化対策工事の進捗と市民への影響を問う
- 2 済生会栗橋病院加須市へ一部機能移転、市民の命と健康を守るために現在地に「急性期部門」の存続を
- 3 久喜市の公共交通はまちづくりの根幹で充実させるべき
- 4 「草刈り」の改善が求められている

渡辺まさよ：10日③番目

- 1 東京理科大跡地の物流センターの営業開始に伴う協定について
- 2 障がい者（児）支援の改善要望にしっかりと応えるべき
- 3 公共施設の和式トイレを洋式へと要求し進められているが、改修できるまでの間、前面に手すりを付けては
- 4 生活保護受給者の熱中症死亡が報道されているが、クーラーの設置と見回りの対応を強化すべき

平間ますみ・7日①番目

- 1 学校給食費の負担軽減について
- 2 小中学校校舎雨漏り対策について
- 3 市道鷲宮 414 号線・市道久喜 2071 号線の拡張工事について
- 4 市内に公共トイレの設置をについて
- 5 オスプレイの飛行について

杉野おさむ：7日④番目

- 1 市立図書館への指定管理者制度導入は止めよ
- 2 全国学力テストへの参加は取りやめよ
- 3 新たな自然災害に対する備えを強化すべきだ
- 4 東海第2原発の再稼働反対を明確に。事故に対する備えの強化を



市民の願いが！